

有害鳥獣の生態観察と捕獲手法の検討

九州森林管理局 森林技術・支援センター 岩下 正斉
川畑 地歩
山本 佑主

1 はじめに

当センターでは、近年は、専ら笠松式くくり罠で捕獲しており（過去4年はシカとイノシシ合わせて89頭。年に20頭程度）、また、以前当センターで開発した巾着式網罠は、くくり罠に比べ設置に手間がかかることもあり、現在は使用していません。小林式誘引捕獲法については九州各地で実施していますが、当センターではこれまで取り組んでいませんでした。

このような状況の中、捕獲の効率化に向け、動画撮影による生態観察、笠松式くくり罠の改良、誘引捕獲の実践に取り組みました。

2 取り組みの経過および結果

(1) 予備的な調査の結果（令和4年冬期）

小林式誘引捕獲法（写真1）では転石等で罠を囲み、その外側にヘイキューブを置きますが、今回の検討では、竹の杭で罠を囲ってみました。

写真2のように短い杭を使うものと、写真3のように長い杭を柵状に囲った2つのタイプを作製し、餌は米ぬかを使用しました。

写真1 小林式誘引捕獲法



写真2 竹杭（短杭）



写真3 竹柵（長杭）



写真4 採餌の状況



餌をセット後、数日から1週間程で採餌が始まります。時間が経過すると、警戒心が低下するようで、竹杭等を

気にしなくなりました。(写真4)

この時期、米ぬかはイノシシ等に有効であり、また歩行の誘導方法としては、短い竹杭は有効ということが分かりました。

長い杭で柵状に囲む方法は効果がないことが分かりました。柵状とする場合は、ネットやワイヤメッシュなどの丈夫な人工資材を使う必要があります。

(2) 動画撮影 (誘引餌に対する反応等を観察)

誘引餌で使用した米ぬかについては、タヌキ、アナグマには冬も夏も有効であり、イノシシには、冬には有効ですが、夏はそれ程有効ではなく他の餌が豊富な為ではないかと考えられます。シカは、多様な草本を餌とするためか、米ぬかなど特定の餌に執着せず、目の前にあれば食べるという程度の反応でした。

このように、誘引の程度に差があります。捕獲時期やターゲットに応じて誘引効果の高い餌を使用することが肝要です。捕獲対象や時期に応じて、誘引効果のより高い餌を使用することが大切です。餌は多様なものが考えられ、米ぬか・ヘイキューブ・サツマイモ・栗の実・野菜・桑の葉等検討の余地が大きいのと思われます。

また、歩行の誘導方法については動物の習性を観察するなどして、採餌中に自然に踏板を踏むように誘導することが重要と思われます。

(3) 罠の改良 (笠松式くくり罠)

通常笠松式くくり罠は、踏板を塩ビ管に落とし込む方式で(写真5)、確実に作動させるため、塩ビ管の幅を長くし、深めの埋め穴を掘ります。今回、改良した踏板は、屈曲板タイプ(写真6)です。踏板を、木枠の上で稼働させることにより浅堀で設置でき、踏込み時の罠の反応が向上するというメリットがあります。また、木枠の代わりに丈夫な塩ビ管で枠を作製(写真7)しました。

屈曲板のくくり罠は、今回9月に6基稼働させ、シカ2頭、イノシシ1頭を捕獲しており、十分実用に耐えると考えています。

写真5 踏板と塩ビ管/笠松式



写真6 屈曲板と木枠



写真7 屈曲板と塩ビ管枠



次に、踏板を屈曲板にすると罠の反応が良くなることについて説明します。

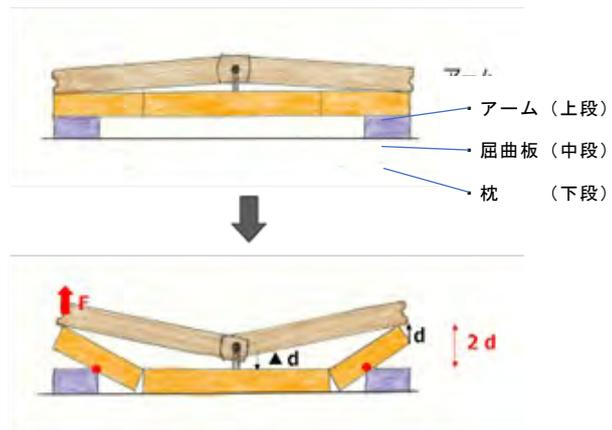
図1イメージ図のように、屈曲板(中段)の両端が屈曲し、アーム(上段)の先端が跳ね上がります。踏板の両端は、木枠(下段)を枕にして上がるようにしています。屈曲板は、その先端でアームを押し上げるので、力 F (=アームによる反力)は小さくてすみます。

また、屈曲板は、枕の部分がシーソーのような動きをし、押板は中央部に落ち込み(▲d)と先端の跳ね上がり(d)で実質2d分アームを押し上げます。これにより、アームの反転がスムーズになり素早く動きます。

写真8 踏板の動き



図1 イメージ図



3 誘引罠の試行・実践

餌の種類や誘導方法などを検討し、罠は屈曲板の塩ビ管タイプを使用し、令和6年10月に誘引捕獲を試みました。

また誘引方向を固定するため、ワイヤメッシュ柵を使い、罠の後方に設置しました。(写真9)

誘引餌としてヘイキューブ・アオキ・桑・ミカンの葉・栗の実をそのワイヤメッシュ柵の中に置き捕獲を試みました。(写真10)

結果として、シカが近くまで寄ってきましたが周辺の草ばかりを食べており、捕獲はできませんでした。(写真11) この時期山には木の実が、またお米の収穫期でもあるため周辺に食べるものも多く、誘引餌に誘引されなかったのではないかと思います。餌が少なくなる冬期に確認する必要があります。

写真9 罠の設置



写真10 餌の設置



写真11 誘引の状況



4 誘引捕獲について (整理)

従来のくくり罠は、山中など明確な獣道があり、踏み足の位置がわかる場合に適しています。仕掛けはシンプルで、獣に気づかれず捕獲します。誘引式のかくり罠は餌で誘引するための仕掛けが必要ですが、獣道が不明確な箇所、具体的には畑、草原などの平地を含めて捕獲ができるという利点があります。

ただし、捕獲が成功するか否かは警戒心に対し、餌の魅力が上回るようにしなければなりません。どのような場合にどのような餌が有効か、また周辺の餌がどうかということも大きく捕獲に影響します。警戒心は時間とともに薄れると思われませんが、いろいろ試して見る必要があります。

5 最後に

有害鳥獣捕獲については、これまでの捕獲実績の中に経験知がたくさんあります。一方、動画情報を活用するなど、今まで確認できなかった生態の情報を集めることができました。これらをベースに各方面のノウハウを集積して実践結果、工夫例等の情報共有など改善努力を積み上げていくことが重要だと思われます。

今回誘引捕獲の方法や、罠の改良を中心に取り組んでみましたが、引き続き、効果的な捕獲技術の推進に向けて効率化等の試みを進めていきたいと考えております。